



みなさんの身近な山や公園では、春になると草木がのびたり、冬が来て葉を落としたりすることはよく知っていますね。海も陸と同じように、季節の変化があります。アジュール舞子(まいこ)の浅い磯(いそ)で1年を通して写真を撮りました。

秋のおわり～春 アイナメやメバル、カサゴは海水の温度が下がりはじめる秋のおわりからたまごを産みます。新年をむかえるころから、冬の太陽の光を浴びて、海藻(かいそう)がぐんぐんと生長します。サクラがさくころの海の中は、とてもにぎやか。生まれたばかりの魚たちは、海藻をかくれがにし、海藻につく小さなヨコエビやワレカラ、アミ類を食べて成長します。

夏のはじめ 半そでですごせる季節になると、海水の温度も少しずつあがっていきます。陸上では木の葉がひろがる季節ですが、海の中では岩が見えなくなるほどあった海藻が、かかれてはちぎれ、潮(しお)に流されていってしまいます。この季節、砂浜(すなはま)でいろいろな海藻を拾うことができます。また6～7月の大潮(おおしお)のころ、クサフグが砂浜でたまごを産みます。みなさんもかくれて待てば、砂浜から産卵(さんらん)を見ることができますよ。

夏～秋 夏休みになると、いよいよ海開きです。冷たい水を好む魚たちは深い海にもぐってしまい、入れかわるように夏の魚が回遊してきます。マスクをつけて水の中をのぞくと、波止やテトラの近くで、ズズメダイやベラの仲間、海底でエサをあさるボラのむれを見ることができます。また夏のはじめに生まれたアオリイカの赤ちゃんも波間にただよっています。なかにはソラスズメダイのようなカラフルな魚が、南の海から潮に流されてやってきます。そして秋が深まり海水の温度が下がると、回遊魚たちは姿を消すのです。

撮影・協力 宮道成彦 小林令伊子

アジュール舞子 磯の四季